この町で「生きていく」

昨年の2月「緑のふるさと協力隊」への参加が決まり、私の元へ「派遣先一覧」が送られてきました。

「かわねもとまち？ほんまち？」と、読み方すら知らなかったその頃の私。静岡県なら気候も穏やかだし、ミカンの産地だし、愛媛と似ているかも…。そんな軽い気持ちで、第一希望の欄に「川根本町」と書きました。

あれから約1年。私の選択は間違っていませんでした。希望理由はかなり適当でしたが、本町に来たことを後悔したことは一度もありません。

この一年、とにかく人に助けられてばかりでした。協力隊は無償ボランティアなので、活動先で報酬を受け取れません。生活費は町から支給される月5万円。なんともつつましい生活を強いられるわけですが、今日まで無事生きてこられました。それもこれも本町の皆さんのおかげです。

もともと人に頼ったり甘えたりするのが苦手な私。最初はみんなが親切にしてくれるたび「助けてもらうばかりで申し訳ないな」と感じていました。自分は誰かの役に立っているのかな…と思い悩んだこともありました。

しかしいつの頃からか、甘えたり頼ったりすることもコミュニケーションの一つなんだと思えるように。「協力隊の一年は特別なんだ。だったら、どっぷり浸かってみよう」と思えたのです。結果、「協力隊」ではなく「協力され隊」になってしまいましたが…。

私がこの町に残ろうと決めた理由は「皆さんに親切にしてもらったから恩返しをしたい」なんていう殊勝な理由ではありません。先月号にも書きましたが、「この町に暮らす人に可能性を感じ、一緒にこの町を元気にしたい」と思ったからです。

「地域活性化のためには『若者、よそ者、ばか者』が必要だ」とよく言われます。とりあえず私は「若者」と「よそ者」の条件を満たしています。協力隊の自分にできることは「よそ者視点」で思ったことや感じたことを率直に、この町の人たちに伝えていくことではないかと思ったのです。

だから、事あるごとに発信してきました。歯に衣着せぬ発言をしても「よそ者が生意気なことを言って」と怒られるどころか、「よくぞ言ってくれた」と感謝されることもしばしば。本町の皆さんにとっては「若者、よそ者」の私の言葉が、よほど新鮮で刺激的だったようです。

これから私は「緑のふるさと協力隊」という肩書きがなくなり、一町民として本町で暮らしていきます。「若者」はギリギリ有効かもしれませんが「よそ者」の効力は少し弱まるかもしれません。

だったら私は「ばか者」になろうと思います。「ばか者」とはいわゆるアイデアマン。突拍子もないことを言い出して、皆さんから煙たがられることも多いかもしれませんが、ひるむことなく発言・行動していきたいです。これからは「協力隊」ではなく「共に生きる地域住民の一人」として、時に厳しく接していただけたらうれしいです。

とは言っても、協力隊の肩書きがなくなることに不安もあります。協力隊時代との生活のギャップに耐えられるだろうか。「ただの人」になった私に何ができるだろうか…。

協力隊がいかに恵まれていたかということを、今ひしひしと感じます。いろんな人の支えの中で、かけがえのない時間を過すことができました。お金には代えられない出会いと経験の数々は、私の「人生の財産」です。

「地域が協力隊を育てる」と言っても過言ではありません。皆さんには、今後も協力隊（と元協力隊）の活動に関心を寄せていただければうれしく思います。

本町の皆さん、今までありがとうございました。そして、これからも、神東美希をよろしくお願いします。

赤石太鼓にも挑戦しました

茶茗舘で川根茶の接待を

ある日の農林業センターにて

お茶みらい座談会で思いを語る

「地域が協力隊を育てる」という考え方を投げかけた美希さん
これからこの町の一住民として、どのような未来予想図を描いていくのか
「今までありがとう」ではなく「これからも、よろしく」
そんな思いが込められたカントリーロード「ラスト・メッセージ」

お金には代えられない
出会いと経験の数々は、私の「人生の財産」です。

広報かわねほんちょうの「カントリーロード」はこれで連載終了しますが、ブログ「徒然かつこin川根本町」は、これからセカンドシーズンに突入します。こうご期待です！
http://katsuko-topparohey.seesaa.net/